【桐生市】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

令和6年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本市の現状は、群馬県内他市と比較すると同等程度あるいはそれを下回る水準となっている部分がある。特に「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」と「学校内の連絡のデジタル化」の2つの項目については、他市と比較すると大きく差が開いてしまっている。

また、上記の問題を引き起こしている要因として、本市の校務系ネットワークが挙げられる。本市の校務系ネットワークは、市役所と同じ LGWAN ネットワークに属していることから、運用等については市のルールに倣う必要があるため、学校が利用する際には様々な場面で制限がかかり、校務 DX 化が進められなくなっている。このままでは本市のみ校務 DX 化が進まず、他市に取り残されてしまうことが懸念されるが、LGWAN ネットワークから抜けるには多額の費用がかかること、また、「桐生市立小中学校適正規模・適正配置計画」が進んでいることから、離脱をするきっかけやタイミングを計っている状況である。

2. 校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

群馬県では、令和7年度より県域共同調達で学校デジタル基盤（校務支援システムと汎用クラウドツール）の導入が検討されており、本市では現校務支援用サーバの契約が終了する令和11年度の参画を予定している。そのため、それを契機に令和11年度までに LGWAN ネットワークから離脱し、教育委員会独自の校務系ネットワークの構築を進めていきたい。そして、これらを実現することで、低水準となっている「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」と「学校内の連絡のデジタル化」について改善していきたい。

また、本市では生徒の学習データの分析による効果的な指導の実現と、教職員の多忙化解消に伴う採点業務の負担軽減のため、令和7年度にデジタル採点システムの導入を予定している。採点に係る時間を軽減し、生徒に向き合う時間を増やす目的もあるが、蓄積された採点データを活用することで、生徒の学力向上、校務の効率化及びペーパーレス化も推進していきたい。